



第3回学校説明会 ⑦



『青春ど真ん中の毎週1時間』

昨日の第13号の締めくくりに書いたこのフレーズに対して、とってもうれしいレスポンスを頂きましたので、もう少し、「こころ・感謝」についてのお話を続けることにしました。

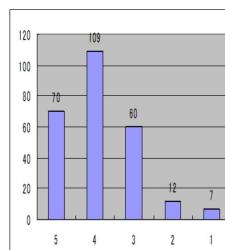
右のスライドには、今年度の高校1年生についての内容が書

かれています。感想文から、抜粋したものです。こんな学びを重ねている高校生は、石川県内にどれだけあるのでしょうか。そんなことも、あんまり知られていないことの1つなんですね。



13自分が生きていくうえで大切にしたいと思うことを学べた。

	5	4	3	2	1
人数	70	109	60	12	7
学年	27.1%	42.2%	23.3%	4.7%	2.7%



左の写真は、2006年のもので、「こころ・感謝」の授業で、『ブラインドウォーク』をしている写真。

そしてその横にあるのは、その年の高1対象の授業アンケートです。

歴史があるんです。



宗門校の教頭になって17ヶ月がたちました。親鸞聖人の教えをちょっとずつ学んでいるのですが、なかなか進みません。が、とにかくまずは『歎異抄』に向き合うことにしました。梅原猛先生の現代語訳を、不定期に紹介したいと思います。

『歎異抄 第1条』

阿弥陀さまの不可思議きわまる願いに助けられてきっと極楽往生することができると信じて、念佛したいと言う気がわれらの心に芽生え始める時、その時すぐに、かの阿弥陀仏は、この罪ぶかいわれらを、あの輝かしき無限の光の中に収め取り、しっかりとわれらを離さないのであります。その時以来、われらの心は信心の喜びでいっぱいになり、われらはそこから無限の神神の利益を受けるのであります。阿弥陀さまの衆生救済にお願いは全て平等であり、老いたる人を若き人より、善き人を悪き人より優先的に救おうなどと言う事はありません。ただ信心が肝心なのです。信心さえすれば、どんな人でも阿弥陀さまは救ってくださるのです。というのは、阿弥陀さまの本来の願いは、この罪ぶかく、心に様々な煩惱を抱くわれらのごとき衆生を助けようとするためだからであります。それゆえ、この阿弥陀さまの本願を信じるためには、他の善をなす必要は毛頭ありません。ただ念佛すればいいのです。念佛以上の善は他にはありませんから。また、あなたがかつてなしたであろう悪業や、いま現にこれからするであろう悪業を恐れる必要はありません。この阿弥陀さまの本願を妨げる以上の惡はありませんから。